

# プロジェクト憲章

## 1. プロジェクト名

茅ヶ崎市向けSNSを利用した災害避難マップ開発プロジェクト

## 2. プロジェクトの概要

茅ヶ崎市で水害が発生した際にそれに関連した投稿をSNSから取得し、データを集めるというツイート収集機能と災害のシミュレーションを行うという二つの機能を持ったシステムの開発。  
クライアントは茅ヶ崎市、エンドユーザーは茅ヶ崎市民とする。

## 3. プロジェクトの背景

日本では常に全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生している。近年の自然災害の被害状況を国土交通省の資料で見ると、平成29年7月九州北部豪雨による土砂・洪水氾濫及び流木による被害や平成30年7月の豪雨による浸水被害、令和元年9月台風第15号による倒木などが挙げられる。

また、身近な区域に例を挙げると茅ヶ崎市にて2016年台風21号にて千ノ川が危険氾濫推移を越え、2019年台風19号にて小出川、相模川、桂川の水位上昇、避難者数8760人、人的被害3件、

物的被害31件のような大きな被害が確認できる。

#### 4. プロジェクト目的

プロジェクトの目的として本プロジェクトは以下の3つを提唱する。

- ・市民への災害情報の提供および共有
- ・集めたデータから得られる位置情報で災害状況を把握すること
- ・災害情報の予測及び可視化

#### 5. プロジェクト目標

上記の目標に対応させ、三つの目標をいかに述べる

- ・Twitterから有用な情報を低いノイズ率で収集し提供できるシステムの開発
- ・茅ヶ崎市の地名、ローカルワード、ランドマークで位置情報を判別し表示できるシステムの開発
- ・市内の危険区域の推移を正確に趣味レーションできるシステムの開発

#### 6. プロジェクトの要求事項

- ・実現する機能
  - ユーザが災害を恐れ、より警戒を強めるシミュレーション
  - 関連しない投稿を可能な限り排除した投稿収集システム
- ・成果物
  - Web上で動作するシステム及びシミュレーションの完成
- ・作業範囲
  - 本システムの開発及び評価、さらにその後の対応

#### 7. プロジェクトの開発環境

システム開発

HTML+CSS

JavaScript

Python

TwitterAPI

シミュレーション開発

Blender

GIS

#### 8. 成功・失敗条件

成功条件

プロジェクト演習の期間内でシステムの開発完了及び目標の達成を成功とする。

失敗条件

目標を一つも達成することができない場合を失敗とする。

#### 9. コスト プロジェクトの資源

WBSから積算し導きだす。

人件費

WBSより作業時間を集計、以下の時給で計算をする。

プログラマ・デザイナー →0.5万円/時

プロジェクトマネージャー →1万円/時

$1793 \times 5000 + 259 \times 10000 = 11555000$

コンティジェンシー

スコアポイントを1時間として、それらの合計を時給換算したものをコンティジェンシー予算として計算する。ここではプログラマとデザイナーの時給で計算する。リスク計画書に記載されているリスクのスコアポイントすべての合計は108である。

$108 \times 5000 = 540000$

人件費11555000円  
コンティンジェンシー予算540000円

これらを合計した12095000円を本プロジェクトのコストとする。

**10. 前提条件と制約条件**

前提条件: プロジェクトメンバーごとの役割を設定し、全員が開発に携わること。  
システム開発を2名、シミュレーション開発を3名。  
プロジェクトマネジャーはシミュレーション開発を兼任する

制約条件: 12月の発表会を期日としたシステムの開発

**11. 想定するステークホルダー**

クライアント: 茅ヶ崎市防災課

エンドユーザー: 茅ヶ崎市民

開発者: A07班

**12. プロジェクト憲章の認可**

プロジェクト憲章を認可する人物: 主担当の先生方